

## ヘルパンギーナの流行について（注意喚起）

県内でヘルパンギーナの患者が増加しています。

県が実施している感染症発生動向調査の令和5年第23週において、大崎保健所管内における1定点医療機関あたりの患者数が13.17人となり、警報開始基準値（6人）を超えました。

ヘルパンギーナは乳幼児を中心に夏季に流行がみられる感染症です。今後、感染者の増加が予想されますので、感染拡大を予防するため、石けんと流水による手洗いの徹底等をお願いします。

### — ヘルパンギーナとは —

原因：主にエンテロウイルス属コクサッキーウイルスA群により感染する。

症状：突然の発熱（38～40℃）に続いて、のどの痛み、口の中に水疱（水ぶくれのような発疹）ができる。口の中の痛みのため、食事や水分がとりにくくなり、脱水症状を起こすことがある。

多くの場合、予後は良好。まれに重症化（髄膜炎など）することがある。

好発年齢：5歳以下の乳幼児に多い。

潜伏期間：2～4日

感染経路：飛沫感染・・・咳やくしゃみなどによって感染する。

経口感染・・・患者の手についたウイルスが飲食物を介して感染する。

（症状が消失してもウイルスは便中に4週間程度排出され続ける。）

治療：特別な治療法はなく、発熱や痛みを楽にする解熱・鎮痛剤が使われることがある。

食事や水分がとりにくくなるため、柔らかく刺激の少ないものを摂取する。

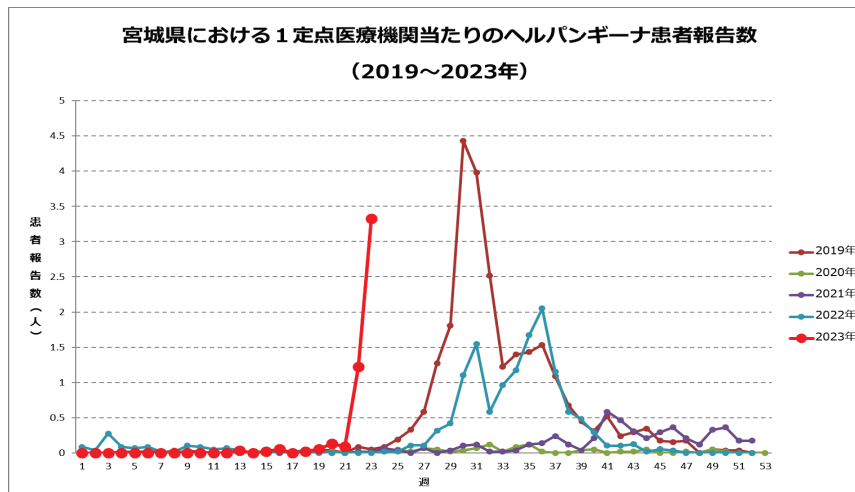
### — ヘルパンギーナの予防 —

- 調理や食事の前、排泄後、おむつ交換後等、石けんと流水による十分な手洗いを徹底する。
- 家族や身近な方が感染した場合は、タオルの共用は避ける。
- 症状がある場合はプールの利用は控える。
- 「咳エチケット」を徹底する。
  - 咳やくしゃみを他の人に向けて発しない。また、ハンカチやティッシュで口と鼻を覆う。
  - 咳やくしゃみが出るときはマスクをする。

### ○ 患者報告数（第23週：令和5年6月5日～6月11日）

大崎保健所管内における1定点医療機関当たり患者報告数：13.17人

宮城県内における1定点医療機関当たり患者報告数：3.33人



### ○ 参考となるホームページ

国立感染症研究所「ヘルパンギーナとは」<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/515-herpangina.html>

宮城県結核・感染症情報センター <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/hokans//kansen-center.html>